

光子の部屋

2013 6月号



6月議会質問

教育行政の諸課題と 子ども支援の充実を質問

1. 教育行政の諸課題について

高校授業料の無償化や少人数学級の推進など、民主党政権になってやっと充実された教育への公的支出が、安倍内閣の下でまた逆戻りしています。一方で、全国学力テストが今年はまだ悉皆（小6，中3の全員が参加する）調査になり、40億円もの予算が使われています。そして、来年度は学校別の結果公表など、点数競争を煽る方向が検討され、学校現場への影響が懸念されます。

安倍政権での公教育の行方が心配です。

(1) 少人数学級の推進と教職員定数改善

(2) 義務教育費国庫負担制度

大牟田市は、他市に先駆けて小学4年生までの35人以下学級を実現しています。少人数学級編制の成果・課題と、文部科学省が昨年9月、5年間で小中全学年を35人以下とする計画を策定していましたが、今年になってさらに検討するとして白紙に戻ったことへの見解を尋ねました。きめ細やかな支援に繋がらぬ不登校も減るなど全国的にも成果が確認されています。早く国として少人数学級を実現し、そのための教職員数増、さらに地域間格差に繋がっている義務教育費国庫負担制度を拡充する必要があると、市教委としてしっかり国へ声を挙げるよう要望しました。

(3) 全国学力テストによる点数競争の過熱と小中学校学力向上推進事業

今年また悉皆（全員が受ける）調査となった全国学力テスト、毎年数十億円もの予算が使われています。まだ続ける必要があるのか、

全国学力テスト対策としか言えないような福岡県の学力向上推進事業（教材集で練習し、年数回テスト、教員研修も）が必要なのか尋ねました。課題を検証し指導にいかすと言うことですが、今でもぎりぎり余裕のない学校です。実施後の課題を把握し見直しを県に求めるよう要望しました。

2. 子ども支援の充実について

(1) 学童保育所へのバス送迎事業

学童保育所が整備されていない校区が4校区あります。今年、他校区の学童に送迎する予算が決まりましたがまだ実施されず、保護者にお知らせもされていません。早期の実施と連絡の周知を求めました。



(2) 早期の発達支援

幼児期後期に顕在化する

発達障害、周囲の無理解から二次障害（学習の遅れや不登校など）も懸念され、早期の発見と支援が重要だと言われます。一層の啓発と、他の自治体で実施され成果を上げている5歳児健診・5歳児発達支援を実施してはどうかと検討を求めました。

(3) 子ども・子育て新制度施行に向けた準備

2015年の本格実施に向け充実した事業計画を策定する必要があります。会議のメンバーや庁内体制など当面の課題を尋ね、地域で培われてきたマンパワーを生かして若い世代を呼び込むような計画となるよう準備を進めることを要望しました。